

焼き菓子で支え合い

亀岡の作業所

京の2NPO

売り上げ難病支援

売り上げの一部をパーキンソン病患者やその家族に役立てる焼き菓子を、亀岡市保津町の第三かめおか作業所の障害者たちが作っている。京都市下京区のNPO法人2団体が始めた取り組みで、患者らの支援と、障害者の賃金向上を図る「おいしい」プロジェクトとして期待が集まる。



2団体は、障害者や途上国支援に取り組み「フェア・プラス」と、患者らの相談やケアの勉強会を行う「パーキンソン病支援センター」。同じシェアオフイスに入居しており、支援の広がりを目指して企画した。

焼き菓子は品質を追求し、第三かめおか作業所にパティシエを迎えて作った。パウンドケーキ、タルト、フィンランシェを製造。担当の通所者7人が注文に応じて一つずつ丁寧に仕上げる。日下部育子所長(45)は「通所者にとっては仕事が増える」といい、今後タルトを一つずつ丁寧に作る通所者(亀岡市保津町・第三かめおか作業所)

障害者賃金向上へ

一方のフェア・プラスは、同センターの隔月発行のニュースレターにチラシを同封してもらい、活動をPRできる。河西実事務局長(60)は「障害者の経済的自立のため」といい、今後増えるといい、今後は他団体との連携も模索する。

焼き菓子は2千、3千、5千円の3種類のセットを販売する。問い合わせはフェア・プラス ☎075(343)6472。(小池直弘、逸見祐介)

一本では、その成果を一章。江戸や明治期に地

張りがいがある」と語る。

南丹ゆかりの作家 競演

美山かやぶき美術館

木工や陶芸 逸品158点



南丹地域ゆかりの作家による作品を集めた工芸展「用の美の空間2013」が、南丹市美山町島の美山かやぶき美術館で開かれている。古民家の趣が残る空間に、木工や漆芸、陶芸など逸品が並び、来場者は伝統の美を味わっている。

工芸の素晴らしさを伝える作家を中心に、会場の身近に触れてもらうのを狙いに、2008年から続く。今年から昨年8月に発足した市工芸家協会と市が主催。市内に拠点を構

KTRと北部活性化語る

九州新幹線車両をデザインした鉄道車西デザイナー水戸氏 講演は「車両デザインはじまるまちづくり」午後2時から、舞鶴市伊佐津水戸氏 講演は「車西デザインはじまるまちづくり」KTRを軸とした北部地域の活性化